

秀逸

時代と心

内藤 諒

みんなちがって みんないい
みすゞが言った そんな言葉
私は首を かしげてみた
首をかしげて 思い出す
電車で起きた 出来事を

電車の窓から 晴天を
眺めていたら 事件は起きた
「この席どうぞ」 と一人の若者の声
「ありがとう」 とおばあちゃんの声
見ていたら晴天が さらに明るくなった
「この席どうぞ」 また一人の若者の声
「：」 しかめつらで座る おじいちゃん
晴天がよどんで 暗くなってしまった

みんなちがって みんないい
その考えで いくならば
電車にいた おばあちゃんと
おじいちゃんの 行動は
どちらもいいと いえるのか

私はそうは 思わない

みんなちがって みんないい
みすゞが生きた 時代には
みんなちがって みんないいと
言えた時代 だったのだ
私は その時代を
うらやましいと 思った
そして 同時に思った
私の時代は 心がすたれていると